

# 米沢市立病院

米沢市立病院は、人口減少、少子高齢化で、医療従事者の不足も深刻化する中 2017 年に三友堂病院との連携の方針を表明してから 2023 年 11 月 1 日に三友堂病院と共に開院しました。自治体病院と民間病院が同じ敷地内に合築し連携するのは全国初といわれ、米沢市における地域医療・介護提供体制の維持・発展に資することを旨とし、地域医療連携推進法人「よねざわヘルスケアネット」も始動しました。これは、日本海ヘルスケアネットに次いで県内 2 例目となります。

米沢市立病院の役割は、主に急性期医療を担い、市内唯一の 24 時間 365 日の救急患者受入れ施設となります。臨床検査、画像診断、手術室、ICU、HCU の設備・機能は当院で行い、治療によって状態が安定したあと、回復期医療を担う三友堂病院などの施設を紹介し、「医療の機能分化」「医療連携の充実」を図り地域医療を提供していきます。



新病院での検査室は、外来がある同じ 2 階に輸血業務を含むワンフロアの検体検査室、細菌検査室、生理機能検査室と 3 階の手術室に隣接する病理検査室が配置されております。

職員 23 名で業務を行っておりますが、救急体制の変更に伴い、シフト制を導入しており、毎日 21 名でルーチンワークを熟すことになります。

旧病院では、採血・採尿は有人受付で、曜日によっては受付に長蛇の列となり通行の妨げとなっておりましたが、新病院では、無人受付機 2 台を導入して受付時の混雑は解消されました。検体検査室は、三友堂病院の検体も受託しているので処理能力の大きい分析装置も導入しました。検体検査室をはじめ、生理機能検査室、病理検査室の医療機器は新病院を機に古い機器は新しい機器に更新され充実してきました。



三友堂病院とは、コモンストリートで繋がっており、そこを三友堂病院の検体が搬送され、当検査室で測定しています。依頼や結果の送信は、両院が同じ電子カルテを使用することにより、同じマスターを活用して可能となりました。

その他、検査科で、ICT・AST や NST、各種委員会に参画し、日々変化する医療情勢に対応し、臨床に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

両病院の経営効率化が図られ、共に栄える「共栄」を実現するその思いを両新病院のシンボルとして、「人が手を取り合い心で繋がっている」イメージのブロンズ像【同心】を両病院の玄関に面したロータリーの中央部に設置されています。

米沢市立病院と三友堂病院の夜景



ブロンズ像【同心】